

園長だより「頑張ることは楽しい」お楽しみ会特別号

12月2日（土）と9日（土）、そしてそら2組は17日（日）に「おたのしみ会」を実施いたしました。子ども達の笑顔と頑張る気持ち、そして何よりも保護者の皆様のご理解ご協力のおかげで大きな事故もなく実施することができました。本当にありがとうございました。心より感謝いたします。

ほし組にとってはお楽しみ会デビューになりました。私は子ども達がもっと緊張するのかなと思っていたのですが……。ほし組の子ども達はあふれる笑顔でステージに登場し、中には保護者の皆さんに手を振る余裕のあるお子さんもいました。皆さんの前に立つこと、そしてパフォーマンスを見てもらうのが嬉しくて仕方がないというような様子でした。私は何度も練習に取り組んでいる子ども達の姿を見てきましたが、リハーサルをしているときの方がはるかに緊張していたような気がします。

今年は緊張知らずで余裕のあったほし組の子ども達。来年度のおたのしみ会が今から楽しみですね。ただ、色々なことがわかってくると逆に本来の「緊張」するということを体感できるようになります。緊張することを知る。これを「成長する」と言います。来年度、今回と違って緊張する子ども達の姿を見ていただけたと思います。それがほし組の子ども達にとっては大きな成長の証になると思います。

そら組の子ども達にとっては2度目の「おたのしみ会」でした。皆さんはどのように感じられましたか。昨年度と比べていただくことで子ども達の成長した姿を感じていただけたのではないかと思います。歌も楽器あそびも昨年度とは明らかにパフォーマンスレベルがあがっていますよね。劇あそびで1組は「かさじぞう」、2組は「スイミー」に取り組みました。どちらの話も小学校の教科書に取り上げられている有名なお話です。子ども達と話し合いを進める中で、それぞれ城東ちどり保育園バージョンにマイナーチェンジしていました。お気づきになりましたか。

個人差はありましたが全員がずいぶん緊張していましたね。これが成長の証です。緊張しなければいけない場面・状況でしっかり緊張できる力。とても大切な「生きる力」だと思います。子ども達は何度も何度も緊張する場面・状況を体験していく中でそれをコントロールする力を身につけていくことになります。

今回のおたのしみ会で子ども達はその緊張の中で、それを乗り越え、やり切った時に大きな達成感や満足感を味わえたと思います。さらに皆さんから称賛の拍手をもらったり、お家で褒めてもらったりすることで子ども達の達成感・満足感は増幅されます。それは子ども達の自己肯定感を高め、子ども達が生きていく上でとても大切な「自尊心」を育てていくことになるのです。幼い子ども達にとって身体面や学力などのように数字で表される部分も大切ですが、数字で表すことのできない心の成長は極めて重要です。子ども達一人一人の心のベースにしっかりとした自尊心を育てていくことも私たちの大切な使命の一つだと思っています。

ゆめ組の子ども達にとっては最後のおたのしみ会になりました。鍵盤ハーモニカの演奏・楽器あそび・歌・劇あそび。お子さんの頑張る姿、成長した姿を目の当たりにして保護者の皆さんにとっては感慨深いものがあつたのではありませんか。どれもゆめ組にふさわしい立派なパフォーマンスだったと思います。でも私が本当にさすがだなと思ったのはご挨拶でも申し上げましたが、緊張を力に変えることができていたことです。登場するとき・退場するとき、そして歌い始める前、歌い終わった後、演奏をしようとする前、そして演奏後。みんなが揃っていたということです。良い姿勢を保ったり、演奏前と後に不必要な音を出さない。このためには一人一人が「みんなでがんばろう」「いいパフォーマンスを見てもらおう」という気持ちが必要です。ゆめ組の子ども達がみんなこんな気持ちでおたのしみ会に取り組んでくれたということですね。気持ちが整っていたということです。

昨年3月に「子ども達がいいきと園生活を送り、子ども達の笑顔あふれる保育園」を実現するために、全職員に8つの柱を提示いたしました。その一つの柱が「整える」です。「身だしなみを整える」「言葉遣いを整える」「持ち物を整える」「姿勢を整える」「生活リズムを整える」……。それらのことを整えることは子ども達の気持ちを整えることになると考えています。「整える」これは来年の4月から小学生になるお子さんにとって、大切な学びの基礎基本になります。人間は本来、自分本位で勝手なもの。誰だってやりたいことだけを自分のペースで続けていきたいものです。でも、いつまでもそういうわけにはいきません。子ども達は成長するにつれて「整える」ことの大切さを知ることになります。周りを見ることができるようになったり、少しずつ空気を読めるようになったりするのです。今、自分は何をしなければいけないのか。どうあるべきか。これを判断できるようになるとするのは子ども達にとって大きな成長です。

城東ちどり保育園はこれからも「整える」ということを大切にして、保育・教育を進めていきたいと思っています。

私は小学校で高学年の担任として何度も学芸会や音楽発表会を指導してきました。今さらの泣き言ではないですが、劇であれ、合奏であれ、本当に大変だったことを思い出します。高学年の子ども達であっても大変なのですから、低学年の先生方が1・2年生の子ども達を粘り強く丁寧に指導おられる姿に頭の下がる思いでした。

お楽しみ会を実施するときに私たちが絶対忘れてはいけないことは劇や合奏を保護者の皆さんに見ていただくことが主たる目的ではなく、子ども達を成長させることが目的であるということです。そのためには子ども達の心の中に「やらされている」という気持ちを持たせないことです。子ども達と、あるいは子ども達同士で話し合いながら進めるというのもそうですが、子ども達が主体的に劇や合奏に取り組むための指導の手立てを丁寧に進めていくことが何よりも大切です。おたのしみ会を実施するにあたって、城東ちどり保育園の保育教諭が全員、子ども達をしっかり成長させるために子ども達に負けないうくらい頑張ってくれたことを嬉しく思っています。

今年度もおたのしみ会で子ども達の笑顔と成長を見ることができました。